

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2017.10.28)

ネットワークジャパン扱いのクアドラルのスピーカー「TITAN-9」試聴会に行ってきました。

日時：10月28日(土) 1:15～PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

<使用機材>



クアドラル スピーカーシステム TITAN-9 ¥3,780,000 (ペア)



アキュフェーズ プリアンプ C-3850 ¥1,944,000



アキュフェーズ A級モノラルパワーアンプ A-250 ¥2,700,000 (ペア)



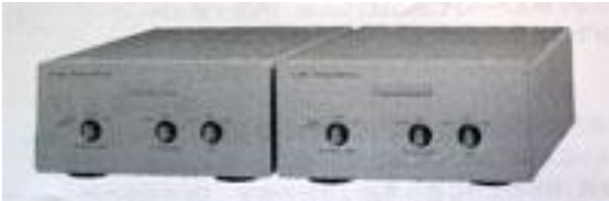
アキュフェーズ SACD トランスポート DP-950 ¥1,296,000



アキュフェーズ D/A コンバーター DC-950 ¥1,296,000



フェーズメーション MC カートリッジ PP-2000 ¥475,200



フェーズメーション セパレート型管球式フォノイコライザーアンプ EA-1000
¥972,000



ラックスマン ベルトドライブプレーヤー PD-171A ¥534,600



当日のセッティング

< 試聴の経過 >

試聴はクアドラル社の成り立ちや TITAN-9 の仕様の技術的説明を織り交ぜながら進行しました。下記サイトに紹介があります。

<http://www.titanstory.de/en>

<http://www.network-jpn.com/quadral/wp/>

最初はギターとジャズピアノの CD から始まりましたが、一聴して透明感がありクリアーで開放的な鳴り方をしていることが聴きとれます。

女性ボーカルを挟んでホルン協奏曲とチョン・キャンファのヴァイオリンがかかりましたが、弦についてはもう少しウェット感がほしい印象でした。

ついでフュージョン、ジャンル不明の現代曲のような音楽、ジャズトリオと聴いていきましたが、音の切れ味とか、弾み具合とか、スピード感を強調しているような曲ばかりで、こういったジャンルの音楽には向いているように感じました。

ここでアナログに移り、ジャズ、ロック、ファリヤの三角帽子と聴いていきましたが、アナログらしい音の質感は好ましいものの、透明感やスピード感はデジタル再生と同様です。最後の締めはオペラをラテン風アレンジした曲でした。

選曲の関係から、TITAN-9 の本来のポテンシャルが把握できなかったのも、持参したシュタルケルのバッハのチェロ組曲と佐渡裕指揮トーンキューストラのブルックナー4番をかけてもらったところ、ディテールの再現がよく、忠実度の高い音が確認できましたが、透明感はあるものの、少しクールな印象で、オールアキュフェーズの入力・駆動系との関係もあるだろうと推測されます。なお、音のにじみがほとんど感じられないのは、ネットワークジャパンの防弾ガラスのラックの効果も寄与しているものと思われま

す。また、ドイツの本社から来日されて同席されていた開発技術者に開発時にどのような音楽で評価するのか、ドイツのユーザーはどのような音楽を聴いているのかと聞いたところ、幅広い音楽ジャンルで評価し、ユーザーも幅広い音楽ジャンルを聴いているとのことでした。クアドラル社の HP のフォトギャラリーを見ると、クラシ

ックのシーンは見られないので、やはり今日的な音楽との調和を目指しているように思われます。

スピーカーとしては忠実度の高い印象を受けましたので、入力・駆動系を替えて、クラシックを聴きこんでみたいと思います。

以上